



## 海辺・川辺調査レポート

■ 名 前 (ふりがな)	上 平 啓 史 (かみたいら ひろふみ)
■ 学校名	名川町立名久井第二中学校
■ 学 年	3 学年
■ 年 齢	1 5 歳
■ お手伝いしていただいた方の名前	上 平 一 雄 (父)

■ レポートした場所	青森県三戸郡名川町大字鳥舌内の内川付近
■ レポートの題名	私たちの手で、自然をあるべき姿へ
■ 内 容	<p>私たちが生活している身の回りのいたるところに川はある。その一つに内川という小さな川がある。流れが緩やかで、細く、南部小富士とも呼ばれる秀峰「名久井岳」の山すそを流れ、太平洋へ至る馬淵川に注ぐ小川である。その川は、僕が生まれた頃はコンクリートに覆われていて、その姿しか見たことがない。</p> <p>そして、真の内川の姿、そして自然とはどうあるべきかを見出すために調査を始めた。</p> <p>およそ40年前。清らかな水が、この内川を流れていた。夏にはヤマメなどの魚が泳ぎ、モズクガニや様々な水中の虫も生息し、その魚や虫を目当てに、子どもたちがいつも声をあげて川へ飛び込む姿を目にしていたようだ。また、クレソン（水菜）も生育していて、地域住民の重要な食糧源にもなっていた。</p> <p>また、秋には、黄金に輝く「かや」が背を伸ばし、内川に降り注ぐように育っていた。黄金に輝くかやは、外見から稲穂にも例えられ、僕の母校である鳥舌内小学校の校歌の中でも歌われている。40年経つ今でも、その「黄金がや」のことは、校歌を通して地域の子どもたちに伝えられている。</p> <p>そんな清らかな水が流れ、美しい内川も、時代の変化とともに姿を変えていった。平成に入った頃、がけ崩れ等の災害を防ぐための工事が行われ、様々な作業機械が川へ入り、がけはコンクリートで固められた。</p> <p>また、生活環境の変化で洗剤等が普及し、生活廃水が川へ流れ込んだ。そして、一気に環境は悪化し、今までそこに住んでいた魚たち、川の虫たち、それを追いかける子どもたちの姿は徐々に消え、当時の面影はな</p>

なくなってしまった。

しかし、今、世の中では環境問題が騒がれるようになり、現在の環境汚染状況等に関心を持たなければならないという意識が、私たちの地域にも浸透してきた。地域の人々が、徐々にではあるが昔の内川を取り戻そうと、生活廃水の処理、魚の放流を行い、今では魚釣りをする人々を目にするようになった。現在はまだ昔のような「黄金がや」や川の様々な生物を目にすることが出来なくても、少しずつ真の「内川」への道をたどっていると感じている。

私は以前、B & G海外体験クルーズに参加し、環境について学んだことがある。そのとき、環境を悪化させているのは自分たち人間であり、さらに生物まで巻き添えにし、絶滅に瀕するまでになっていたと聞き、人間のしてきたことに恐怖を覚えた。

しかし、今では人間の力でその生物たちを繁殖させ、見事に復活させたということを聞いて安心し、嬉しく思った。人間とは自分の犯した過ちを償うことができる唯一の生き物だ。だから、絶滅に瀕した生物でも、私たちの「内川」でも生き返ることができるかと信じている。今後は、ゴミ拾い等の小さなことにも気を配り、考えるだけでなく自分のできることから実行していきたい。

今までの過ちをふまえ、環境を守りつつ、新たな環境を築いていく。このことが今、自分たちに課せられた重要な責任ではないだろうか。環境保持改善への関心を一人一人が深め、そして行動に移し後世にと伝えれば自然に課題が解決されることだろう。将来、自分の身の回りのだけでなく、地球全部の水が、そして自然が清らかで心安らぐものとなっていることを願いたい。

[昔]



[今]

